

2024年6月22日
楯谷智子

第352回山口西田読書会のプロトコル（2024年6月8日開催）

【テキスト】

第四巻「左右田博士に答ふ」の「三」第1段落、296頁の最終行「以上述べたように、知るという中にも、私は種々の立場の区別をしたいと思う。」から298頁8行目「、主観其物即ち自覚という如きものではなかろうか。」までを読了。

【キーセンテンス】

意志主観及びその対象界をも包むと考えられるものは、実は判断主観という如きものではなくして、主観其物即ち自覚という如きものではなかろうか。（298頁7～8行目）

【問い】

「主観其物即ち自覚」は295頁8-9行目の「私の所謂真の無の場所たる直覚的自覚」ではないでしょうか。とすると、「知る」の3つの立場「判断」「意志」「直観」に、3種の主観が対応することになります。真の無の場所における「直観」は、それがなければ真の無の場所を「知る」ことはできないので、あるはずと理解したのですが、真の無の場所における「主観」とはありえるのでしょうか。「主観=無」となりそうな気がします。